

変わるものと変わらぬもの 双方を見せてくれるまち

# 豊後白杵の町並み

東京大学大学院 都市工学専攻教授 西村幸夫

## ふぐの名所になった白杵

ついふた昔まえまで、白杵がフグで知られたまちになるとは誰も考えなかったのではないだろうか。そんなことを言うと昔から努力してこられた方に失礼にあたるが、フグ(またはフク)は下関や博多の名物ではあっても、少なくとも白杵の名物ではなかった。現在フグ料理屋が集中している掛町や横町、唐人町のあたりは昔ながらの町家と仕舞屋が混在した景色の通りが普通だった。古来より町八町といわれる8つの町から成る城下町の芯であった。それが今や豊後水道の海の幸の拠点、北部九州では押しも押されぬフグ料理のメッカとなったのである。料理人の工夫と伝統料理に似合った下町の風情が食い倒れ風の食欲をかき立てる魅力的なまちに育ったのだ。まちは変わるものだと実感する。

## アーケード街の劇的な変貌

白杵でもうひとつ劇的に変わったものとしてかつてのアーケード街の変貌がある。かつて最も栄えた目抜きの中中央通り商店街には、当時の繁栄の象徴であったアーケードがかかっていた。その名も「シルバード」。それが、長年のうちに昼なお暗きシャッター街となってしまったのである。シルバードという名前が笑えないシヤレの



薄暗いアーケード街だった中央通り商店街



アーケードを撤去 甍った町並み 八町大路 (上写真と同地点)

ように響くようになってしまった。私自身このシルバードの将来計画を依頼され、地元商店街の声を聞きつつアーケード撤去を提案したのは1996年のことであったが、その後モアーケードは残されてきた。白杵保存修景研究会やその後身である白杵の美しい町並みを守る会(現白杵の歴史景観を守る会)など、早くも1970年代から町並み保存運動がおこった白杵のまちにあって、もとも動きが鈍かったのがこの商店街だった。アーケードの撤去が実現したのは、やっと2002年である。今では舗装も石畳に変わり、シルバードは八町大路と呼ばれるようになった。通り沿いの商店の歴史的な風情への改修も半数を超えている。

近年の変貌はすばらしいが、ここまでくるのにはいぶん時間がかかったのも事実である。それはなぜか。傍目から見てもそこにはいくつもの原因があるようだ。たとえば、かつてアーケードを設置したときは個店が資金を出し合い、渋る仲間を説得しようやく完成にこぎ着けたという。1970年代半ば

ついている風景ではない。変わらないことのために努力が続いている風景なのだ。そしてそれはまた、外観を変えないようにしつつ内部に新しいアクティビティを導入し、建物の魅力の再生をはかるといった創造的な作業を各所で実験している風景でもある。

じつはこうした変わらないことのための努力の「遺伝子」とでもいうべきものはさらに高度成長期にまでさかのぼることができる。

海に面した白杵城の足許を埋め立ててセメント工場が進出してこうとしたことに反対して争ったいわゆる白杵セメント事件である。

この運動は裁判闘争に発展し、1971年7月に大分地裁で環境保全重視の判決を引き出し、工場進出を断念させるに至っている。白杵のまちの目の前に広がる海原は昔と変わらぬ光景を見せているが、その背後にはこの風景を守るための激しい戦いがあったのだ。変わらないことは変わること以上に大変な努力を要することもある。そしてこの運動の事務局長として先頭に立っていたのが現白杵市長の後藤國利氏だった。

また、白杵には現在でも白杵の歴史景観を守る会や白杵デザイン会議という名前のみならず、つくり団体が熱心に活動している。変わる努力も変わらない努力も地域デザインのあらわれのひとつである。そしてそうした町並みを支えているのは、白杵人の故郷を愛する気持ちに他ならない。

## 変わらぬ建物の風景の魅力

一方で、二王座の武家屋敷の風景など昔から変わっていない景色もある。いや、電線の地下埋設や石畳の敷設によってかつてより趣のある通りとなっているところも数多い。大きな寺院建築や武家住宅などで、空き家になったり建て替えられそうになったものを住民運動の盛り上がりから市が取得し、見学施設や案内所、休憩所などの公共的な施設に転用して街路風景の保存をはかっている事例も、旧白杵図書館(現白杵民俗資料館)や武家屋敷丸毛家、旧白杵藩主稲葉家下屋敷、新光寺(現無料休憩場)など、十件をくだらない。また自主的に保存のために民間に買取されたり、改装された例は枚挙にいとまがない。

変わらぬ建物の風景とは、変化のない眠



西村 幸夫  
にしむら ゆきお

東京大学工学部都市工学科卒業 同大学院修了  
明治大学助手 アジア工科大学助教授  
MIT客員研究員 コロンビア大学客員研究員  
などを経て現職  
専門は、都市計画、都市保全計画、市民のまちづくり論など  
世界文化遺産の評価等を行う世界遺産記念物会(ICOMOS)前副会長 文化審議会専門委員  
東京都景観審議会部会長「たかはし町並み建築デザイン賞」審査委員長など  
著書「都市保全計画」町並みまちづくり物語」など多数



親切なサインが案内歩いてまちめぐり



白杵出身の作家 野上弥生子の東京・成城の自宅を移築 市中の生家は文学記念館として公開



九州に二つしかない江戸期の木造三重塔は白杵のシンボル 龍源寺



伝統的な町並みに賑わいが甍ってきた 中央通り商店街 八町大路



歴史的な町並み 二王座 整備された武家屋敷と寺と石畳の坂道



2万本の竹のぼんぼりが照し出す幻想的な風景 伝統行事の「うすき竹育」二王座周辺



市中にあって閑雅な雰囲気 白杵藩の上級武士 丸毛家屋敷 市が取得 一般公開



アーケードがなくなり明るく落ち着いた町並みに会話が弾む



旧白杵藩主稲葉家の下屋敷 鯉が群れる美しい水路が巡る